

兵庫県教育委員会・身体障害者社会学級における実践研究

兵庫県身体障害者社会学級事業について

- ・視覚障害者（青い鳥学級）、聴覚・言語障害者（くすの木学級）、進行性筋ジストロフィー症者（たけのこ学級）を対象に、社会人として幅広い教養や実用的な知識・技能等を習得するとともに、広く県民との交流の機会を通して相互理解を深め、ともに生きる喜びを創造する場を提供する。
- ・本実践研究では、県の指導主事がコーディネーターとなり、連携協議会等で成果と課題を明らかにし、プログラムの深化充実を図りながら、地域による主体的な取組をめざし、視覚・聴覚の関係機関、病院、福祉部局等と連携して取り組む。

青い鳥学級(視覚)

- ・学級数等: 6学級9教室(308名)
- ・開設場所: 6地区(公民館等)

くすの木学級(聴覚・言語)

- ・学級数等: 6学級7教室(185名)
- ・開設場所: 6地区(公民館等)

たけのこ学級(肢体)

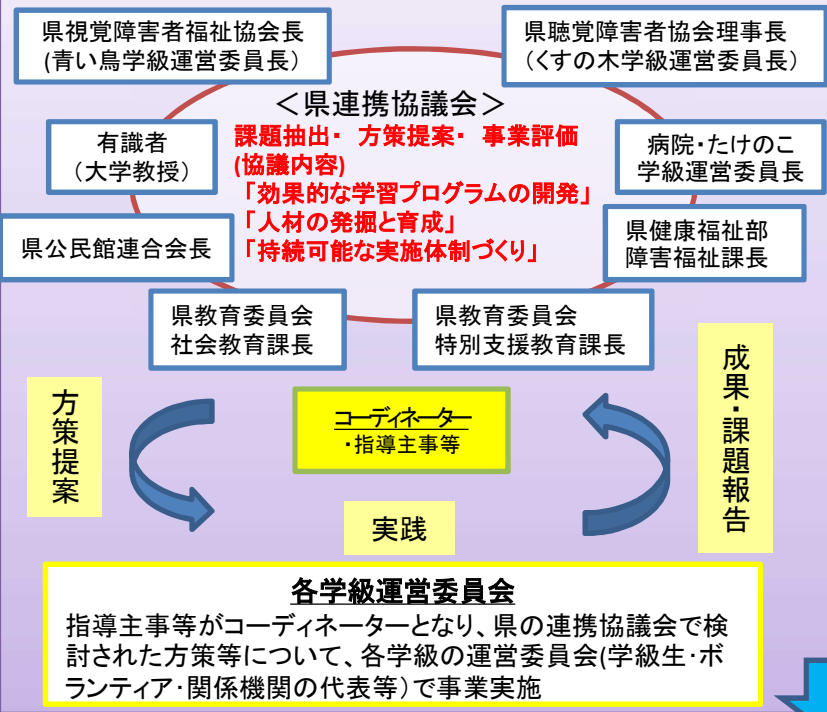
- ・学級数等: 1学級1教室(90名)
- ・開設場所: 病院

何を学ぶか(学習内容): 「教養・文化」「実践・技能」「健康」「見聞(学外研修)」「交流(コミュニケーション)」



たけのこ学級「ビンゴゲーム」

実施体制



実践事例

実践① 関係機関等と連携したプログラム 青い鳥学級(視覚障害者対象)

- ・社会教育・生涯学習部局と高等学校、福祉部局が連携した取組
- ・テーマ: 「共生」の心を育む兵庫の防災教育
- ・学習者と高校生が防災について学び合うワークショップを開催
- ・社会福祉協議会から地元高等学校ボランティア部へ参画を依頼

実践② 自主的な活動プログラム くすの木学級(聴覚・言語障害者対象)

- ・学習者主体で、自分たちの暮らしや地域を見つめ学ぶ取組
- ・テーマ: 郷土の食文化を見つめ直す
- ・学習者自らが調理実習の準備や講師選定など地産地消の取組についてプログラムを企画し講座を開催

実践③ 大学等と連携した取組 たけのこ学級(筋ジストロフィー症者対象)

- ・学習者と支援者が学び合う場「学びと実践の一体化」を図る取組
- ・テーマ: コミュニケーションスキルの育成
- ・介護福祉士、養護教諭等をめざす学生が学習者の特性やニーズに対応したプログラムを開発し、支援者として参画(『スマホの使い方』『ビンゴゲーム』『ダンス』等)

障害の有無にかかわらず、共に学び続けることのできる共生社会の実現